

平成23年6月6日、熊本市ホテルキャッスルにて自由民主党熊本県支部連合会の主催による政治セミナーが開催された。公明党、立ち上がれ日本など各党の県代表者、島県知事が来賓として臨席。

○蒲島知事あいさつ：



谷垣総会が来熊されたのは実にタイムリイである。大政党の連立が言われている。連立を歴史的にみると、これが実行されたのは非常な国難の際と戦争時である。しかし、大連立は非常に難しいことで、谷垣総裁の力量が必要とされる。大連立についての自分はポイントがいくつかあると考える。すなわち①国難の大きさ ②リーダーの無欲さ ③連立党間のイデオロギーの近さ ④選挙までどのくらい遠いかということ。1年間といった時限的な連立、自分は6カ月程度と良いと思う。熊本県の山本代表は無欲な方、また、先の大連立の実質的リーダーだったさきがけの先輩もいられるので、難局を乗り切れると思う。それと、自民党と民主党はイデオロギー的にもそう遠くないと考える。以上は政治学者としての見解である。

○ 立ち上がれ日本 園田氏

政治に変化が起こりつつある。不信任案の騒動を見ると、世論は批判的だった。民主党内の争いは権力闘争であるが、今回の案は、震災だけでなく、日本が危ない状況である。今変えないとどうしようもないということであり不信任案の提出は間違いではなかった。首相が辞任を言えば、実行は数日後でなくてはならない。民主党が連立政権を考えるのであれば、時限的に実施ということなら、国難であるから自民党を中心にやればいいと思う。さらに、民主党は、自分たちが行ってきたことは間違いだったと総括してからやるということが必要だ。日本が本当に再興できるよう力を注ぐことが必要だ。



○ 自由民主党 谷垣総裁：講演 「国難に挑むわが党の姿勢」



次の世代の人たちに、大災害から日本はダメになったと言わせてはならない、あそこから良くなったと言って欲しい。その責務は自民党が担う。それを誓いたいと思う。一昨年の衆議院選挙を総括すると、反省すべきは多くある。しかし、もう一回、自民党頑張れと言っていたきたい。その思いでやってきた。

熊本は、統一地方選挙もほぼ完勝で感謝である。全国も同様である。参議院は第一党である。昨日も青森知事選

では自民党の推薦候補が圧勝した。

3月11日までは、民主党を追い詰められると思っていた。その大きな理由は、政治の中の責任と権限の位置付が全くできていないことである。菅首相は、政治主導というが行政は責任と権限がはっきりしていないと動けない。ここをはっきりせず、責任と権限を飛び越えて動いてしまうということになると、官僚はどのように動いてよいか分からなくなる。浜岡原発の停止にしても、法を飛び越えて停止を決めてしまうなどがあった、これは法と権限の逸脱。また、マニフェストも実行してない部分が多々ある。

しかし、地震、津波が発生し、震災復興については、与党も野党もない。復興に徹底的に協力するしかなかった。1週間国会は休止し、その間、民主党に協力することにした。国会の中に超党派の復興協議会を設けたらどうかと提言した。自民党は地震災害を3回に渡って対応してきた経験があるので、被災復興の各種提案を官邸に持っていった。自民党には復興計画が無いと批判されるが、ちゃんとある。

被災地で、今最も必要なのはお金である。「きずな基金」を設置して必要なお金を支給するよう提言したが、これもなかなか世間には伝わらなかった。補正予算については、年金用の財源を取り崩すことには反対だったが、厳しい状況下、賛成せざるを得なかった。このような状況が5月2日まで続いた。このような状況、政治主導とは名ばかりの責任と権限の不在、誰の責任で持って何をやるのかということが分からない状況が目に見えようになっているのは、不信任案をぶつけるしかなかった。

当日の午前中までは、午前中まで不信任案が通過すると思ったが、状況は大きく変わった。菅首相も自分の進退を賭けた訳だから大いに成果があったと思う。焦点は辞任の時期。トップ、リーダが辞意を表明した後で、難しい仕事は処理することはできないと思う。復興基本法の成立は重大。自民党案を99%丸呑みしてくれ、これは実行することが望ましいが、菅首相は6月中にも辞任することが必要だ。

その後どうする。菅首相が辞めれば工夫はいくらでもある。自民党は、この責任を逃れることはない。しかしながら現在、民主党は300議席を持ち、これは力である。菅退陣後は、民主党の次の体制づくりが始まるだろう。ここでの問題はマニフェスト。マニフェスト是非を異にするグループが二分している。ここを整理する必要がある。ここをやらないと新しい体制でも難しいし、協力のしようがない。まず、民主党の新体制がどうなるのか、それを早くやってもらわないといけない。その上で、どのようなことをやっていくのかということになるのだが、話はそこまでいっていない。マスコミは、自民党は政権に戻りたくて大連立という話をする。どうあっても復興への責任を逃れてはいけないと思う。結局は民主党の考え方次第だ。

3・11は日本のおおきな曲がり角であった。しかしながら、その前後で変わったことと、変わらなかったことがある。ここを整理する必要がある。

変わっていないところ。○日本は高齢化して社会保障への財源は用意されていないこと。○国際社会の中で日本はどうしていくのか、どう世界から尊敬される国にしていくのかという課題。震災が起こって、日本の再評価が始まっているのはありがたい一方、原発の状況に関する情報については隠ぺい体質だとか、都合の良いものしか出さないという批判もある。○今は非常に大事な時期であり、この状況を克服しなくてはならないという大きな課題は変わらない。○あわせて衆参がねじれているという状況も変わらない。二院制の問題と選挙区制の再編成は必要だろうと思う。院政の問題は憲法問題になるので難しいとは思うが。

変わった大きなことは、なにより震災をどう乗り越えていくのかということ。今足りないこと（必要なことは）国が一步前に出るということ。がれきの処理やもろもろの仕事、放射能で汚染されたものの処理なども国が決めていく。阪神大震災の時の課題は「都市の再生」であったが、東北の問題は地域全体の再生であり、各地区のビジョンが必要である。ここ自治体と国の組み合わせには高い知恵がいると思う。復興院のような組織の設置を提案しているのもこの理由による。

ともかく、我々の世代が後世の負担にならないようにすることが大事。覚悟を決めて戦い抜く。自民党も必ず奮起する。みなさんのご協力をお願いしたい。

○ 講演： 金 美齢氏 「日本再生への提言」



結論から言う。日本を再生するためには自民党が政権に復帰する必要がある。

蒲島知事は、先ほど、民主党と自民党にはイデオロギー的に差がないと言われたが、これは暴言である。民主党は寄せ集めである。自民党と大差がないとなれば日本はつぶれる。日本という国をどうするのか。ここを考える知恵が必要。自民党はだらしがない。だから、総選挙時の、あの惨敗

があった。しかしこれは有権者の問題でもある。有権者が国政を担うのは、誰が適切か考えることが出来れば、この体たらくになっていない。

自分は総選挙の際、民主党への投票はやめると主張した。民主党は、アマチュアだからやめると主張したのは自分である。三宅さんでさえ、一度やらせてみたらどうかという発言があったが、国政に一度やらせてみたらというのは非常に危険性がある。国政は実験ではない。これは日本人の油断である。日本は永遠平和で仲良く豊かでトップがどうなっても大丈夫という、無意識に甘ったれた思い（幻想）があるのではないか。

自分は国を失った人間で、国の権力が個人の生活をどう脅かすか、また、どう安定させるのかをよく分かっているから言うのだ。自民党には問題はあるが、「正しい国家感」を持った人間がいるので、それに希望を繋ぎたい。

領土、外交、日米同盟の問題、大切な国の基本を考えると、主眼とすべきは何か、何に優先順位を置くのか決定するのが大事。日本の国が、どうあるべきかということを考えるのが大問題である。しかし、これらは票にならないのが日本人の問題であり、長年の選挙事情である。

09年の総選挙では、「国民の生活第一」に惑わされた。その通りではあるが、国が安定して豊かでなくては、国民の安定した生活などあり得ないということを誰も考えなかった。国民の生活は国家の豊かさに直結しているのである。総選挙の結果を見ると、熊本県は比較的良い方である。愛知県全滅。死屍累々。この状況を見て、私は実に軽佻浮薄であると言った。こういった発言に批判も多くあったが、今になって金さんの言っていることその通りだったと痛感したというメールが多く届く。

熊本の人は「もっこす」、頑固であると聞くが、頑固さを押し通す覚悟があるか。自分はテレビに出たくて出ているのではない、自分の信じていることを伝えたくてテレビに出ているのだ。

選挙で政治家は墮落する。有権者もそうである。高邁な理想を持って政治に参加しようとする人が、選挙で墮落してしまう。票が欲しいために政治家は、耳に心地よいことを言う。有権者もそれを求める。良い例が自民党の導入した後期高齢者制度である。これ以外には、社会保障を繋いでいく施策がなかったことは、よく考えれば明らかであるが、マスコミからはバッシングを受けた。「老人に死ねというのか」と言えばマスコミは喜んで取り上げたものだ。

日本は今後、日本の文化、伝統、歴史を大事にする人が政治をつかさどる必要がある。歴史の長い先進国なら、その歴史は光と影に満ちているのは当たり前である。影の部分のみを増大して、日本人の多くを洗脳した人たちに大いに罪がある。政党「さきがけ」が日本は小さな国といったが、大きな間違い。面積は世界からみれば、大きい。排他的経済水域は世界の6位。日本を誇りに思わない政治家にはNOと言わなくてはならない。日本人ということに喜びを感じる事が大事なのである。菅総理の最大の問題は、自分は「世界市民」と言ったこと。それなら日本国の菊の御門のパスポートを返して「世界市民」のパスポートをもらえばいい。もしそんなものがあるとすればだが。これは、総じてメディアの責任であるが、見識が低い。そこを育てるのが有権者の責任である。

先の不信任案が否決され、良かったと思う。その後の動きで菅の本性が見えた。前首相にペテン師と言われるなんて、こんなに恥ずかしいことがあるか。これで、支持率が上がった。なんて日本人は馬鹿であるか。今日はこのような機会に参加しているが、自民党が与党の時代には一度も呼ばれたことはなかった。野党に転落してやっとお呼びがかかった。今日のように総裁と同席するということもなかった。野党に転落してくれたお蔭である。だから自民党がずっと野党である方が自分にとっては都合が良いが、自分は日本のことを考えている、

野党時代の民主党は、いろんなこと言ったが、その当時でも、ものごとを公平に見た時、自分の発言は自民党側になった。自分の信じていることをどこでも言うべきである。

自分は台湾国籍をはく奪された人間であるが、その時に日本は、特別に自分の滞在を認めてくれた。そのご恩は一生忘れることはない。自分の基本は日本にお礼奉公することである。

今回の震災で、台湾は170億円の義援金を出している。人口2千3百万人の台湾が、これだけの金額を出すということがどういうことか。それは、過去50年間、日本は台湾と一緒に進んできたからである。ここ、熊本からも台湾に多数の人が行っており、無私で台湾に尽くしてくれたことを台湾が忘れていない証である。日本にとって、どの国が一番信頼できるのか、これでよく分かったと思う。中国は、全く違う。中国は理屈なく日本を嫌う。それは、大国である中国があらゆる面で日本に凌駕され続けたからである。中華思想のこの国は根本的に違う。

日本は大きい、また、日本人は優秀であった。しかし民主主義がはびこる中で墮落していった。与えることでなく、もらうことを優先していたからだ。そのことは、選挙によく表れている。だから今の政治家がこの体たらくになったのである。今、まっとうな教育が必要である。

どの国であろうが、その歴史は光と影に満ち満ちている。日本だけではない。歴史がわずか200年しかないアメリカでさえ光と影がある。日本は比較的影が少ない方だ。

日本の再興を願うなら、実際の行動に移すことがまず必要である。日本を愛して、この国のために何が出来るかを考えることが重要だ。自衛隊を暴力装置と言った人がある。しかし、災害になったら国が、自衛隊が動くしかなかったではないか。

自分の講演料は高いが、ボランティアで行くものが3つある。台湾のことならタダ。自分の母校のこと、それと自衛隊関係である。合言葉はお国のためである。

日本人が、本当のことが少しずつ分かるようになったことは救いである。国に実験をさせてはいけない。実験させたために、この体たらくになったのである。民主党は、ボロを出し尽くしたと思う。これでもまだ、民主党を推す人がいたら、自分で自分の首をしめているのと同じである。

次の選挙でも民主党が勝つかもわからない。どうなるかわからない。任期いっぱい居座るかもわからない。その時、大事なのは皆さんがどう自民党を支えるかということだ。

(記録：特別委員会 福田)